

ボランティア体験者レポート

一番心に残っているボランティア活動 2016.09.30

私が小学生のときからそれはもう大量の週末の時間を費やしている、愛してやまないボランティア活動の中で一番心に残っているボランティア活動があります。それは、地域のコミュニティーセンターで、その地区に住んでいる高齢者の方々70人ほどに月に1回お食事を提供するボランティアです。私は高齢者にお昼のお食事を提供する日の朝9時40分から午後2時までの時間ボランティア活動に参加しました。朝9時40分近くから、いつも食事の準備をボランティアでなさっている大人の方々15人ほどが集まり始めました。そこで私がとても驚いたことには、もうお味噌汁やゼリー、魚の煮つけなどほとんどのメインのお料理はもう既に出来上がっていたのです。そのため私が当日お手伝いしたこととしては、前日から準備することができないような、葡萄を洗ったり、お米をといたり、盛り付けをしたりするようなことでした。70人の食事1食分を提供するために、ボランティアの方々は2日間かけて準備をなさっており、さらにそれより前に献立について考えたり、市場から食材を仕入れたりする過程もあります。高齢者の方においしいお食事を提供するためにボランティアの方々がこれほどの努力をなさっていることにとっても感動しました。また、調理をする過程にも長い年月お料理をされてきた経験が生かされており、一人暮らしを始めたばかりで家事や炊事の経験がほとんど無い私にとっては勉強になることばかりでした。作ったお食事を私もいただくことができましたが、それは涙が出そうになるほどおいしかったです。ボランティアで来られている方々は私にとっても気軽に話しかけてくださり、人見知りの私にとってはとてもありがたかったです。ボランティアの醍醐味は、自分にとって新しい分野でも気軽に挑戦できるところにあると思います。私は、このボランティアで慣れないお料理に挑戦することができ、たくさんのお話を学びました。もしこれがお仕事だったならば、私のような炊事の経験がない人は雇われず、私は挑戦することができなかつたでしょう。ボランティア活動の魅力を再発見し、さらに続けていきたいと思うとても良い経験になりました。